



学校だより

のびるかみっ子 ~ “元気” があれば何でもできる!! ~

上小岩



令和8年 2月27日
NO.12
江戸川区立上小岩小学校
校長 宮本 知司

「けやきとともに」 ~日々目を輝かせるかみっ子で~

校長 宮本 知司

旅先に 出会ひし子らは 語りたる 目見(まみ)輝かせ 未来の夢を (令和7年度歌会始より)



グループで「箏」を練習する4年生

高学年を担任することが多かった担任時より、自身の習慣となっていることに“2月1日の神社のお参り”があります。当初は「中学校受験に挑戦する子のための神頼み」という意味合いで、湯島天神や亀戸天神といった「学問の神様」に詣でていましたが、最近は「残りわずかとなった今年度の無事」を祈ることを常としています。今年詣でた神社では、社務所の脇に1枚の紙が掲げられ、大書されていたのがこの歌でした。

天皇陛下がご訪問先で出会った子供たちの、「目を輝かせながら自分の将来の夢を語る姿」に感銘を受けた思いを詠んだものだそうです。まさに「目見輝かせ」と、子供たちの生き生きとした様子が浮かび、そんな子供たちを優しく見つめるお姿も嬉しく思いました。年度も結びの月となりますが、日々目を輝かせて学校生活を送るかみっ子の姿もしっかりと維持し続けようと改めて心の中で誓いました。

さて、ここで本校の長き歴史に関わる大きな話をいたします。本校の歴史とともに歩んだ正門脇のけやきの木のことです。去年の夏の猛暑の頃から急激に樹勢が落ちてきたことから、樹木の専門業者を呼んで診てもらったところ「幹の空洞化も進み、台風などでの倒木も想定されることから伐採をしなければならぬ」という判断をやむなく受け入れました。老木となったけやきの木々には昨夏の暑さや強い日差し、水不足などが大きなダメージとなり、木を弱らせるコケやキノコ類の繁殖も進んでしまったそうです。



『けやきとともに』という通知表の名称の通り、歴代のかみっ子にとって特別な存在であったけやきの木です。昭和7年の開校時に、後援会(現在のPTAにつながるもの)の初代会長であった石井 伊三郎氏より「けやきの木のように真っ直ぐに成長してほしい」という願いを込めて贈られたというけやきは、太平洋戦争の戦火もくぐり抜け、90年以上もの間本校の子供たちのことを見守ってきてくれました。また、開校50周年を記念して作られた『けやき音頭』は毎年運動会で保護者や地域の方々も加わって大きな輪を作って踊られたそうで、今でも町の盆踊りでは定番の曲の一つです。さらに、伝統の「菊作り」には大量の落ち葉から作りたい肥も不可欠なもので、夏に涼やかな木陰を作ってくれた葉は、落葉してからも大いに役に立ったようです。

このような本校のシンボルツリーですので、伐採後には何かしらの形で記念モニュメントとして残し、新たな校舎が建ち上がった際には、正門付近に“2代目のけやき”を植えることの検討も、区の担当者に伝えたところ(3月中には専門業者による伐採が行われる予定なので、目に焼き付けておきたい方はお早めにおいでください。)



卒業行事に向け、体育館の体育用具を運び出す5年生

冬季オリンピックにたくさんの感動と勇気をもたらした2月が終わります。月が変わるとすぐに、大雪への警戒のため延期をしたウィンタースクールに5年生は出かけ、それぞれの学年も一気に年度末のまとめへと入っていきます。進級・進学に向けて子供たちがしっかりと歩んでいくよう、気を緩めることなく日々の指導を行ってまいります。

今年度も一年間、本校教育への温かなお力添えをありがとうございました。